

## 学生の Web および E-Mail 利用の実態と問題点

白井 靖敏

### The Use and Problems in the Web and E-mail Use by Students

Yasutoshi SHIRAI

#### 目 的

インターネットの急速な広がりには周知のとおりであり、コンピュータをはじめ情報関連機器の発達もめまぐるしく、1年で状況が一変することも決してまれではない。大学における情報教育のあり方を考える場合、何年も同じ内容を指導してはだめだと考える。

本学では1996年の学内LAN<sup>(注1)</sup>導入後、大学1年生全員を対象にコンピュータ機器の利用および、ネットワーク利用の基礎指導を行っている。特にインターネットは学習や今後の研究に役立てられるよう指導しているが、実際に学生が利用している内容は教員の思いとは異なっていると感じられる。

全国の小中高では、文部省の指導で急速にインターネットの整備が進んでおり、すでにパソコン等が整備され、インターネットにも接続している学校ではインターネットの教育利用を模索している。文部省や県の研究指定や通産省等が支援しているプロジェクト研究など、先進的な学校も多いことから、少なくとも、あと2~3年のちに大学へ進学する学生は、コンピュータやインターネットの利用に関して、ある程度、経験をもっていることになる。

したがって、1つは、現在、大学で行っている情報リテラシー等の基礎教育の内容を改めなければならない。特に高等学校では新しく「情報科」が設置されるので、その内容とのリンクを考えなければならない。

2つ目は、学生の学内ネットワークやインターネット利用の実態を把握して、適切な指導カリキュラムを作らなければならないことである。

特に、後者に関してみると、現在、メールの使い方やWebページ<sup>(注2)</sup>の見方や利用方法を学習しても、実際にWebを利用している内容は、趣味、娯楽などで、研究や学習課題作成のために活用しているケースは少ないと感じられ、メールについても、同様の傾向がうかがえ、研究や学習のための情報交換は少ないように見られる。

本報告ではWebおよび電子メールの利用目的や内容、自己管理など、学内LANをよく利用している学生を対象としたアンケート調査から現状を分析し、今後の指導を考察する。

#### 方 法

学生のインターネット利用に関する実態を把握するために、本学がアカウント<sup>(注3)</sup>を発行している学生で、なおかつ、よくインターネットを利用している者を対象にアンケート調査を行った。回答学生は、家政学部3年生、短期大学部2年生、文学部2年生、大学院生活学研究科の

学生で、105名を有効回答として集計した。質問項目は、Webの利用状況として、閲覧時間や内容など、メール利用として、受発信の相手や目的、自己管理責任などについてである。

### 結 果

Web ページの利用をみると、1週間あたりの利用回数の平均は2.6回、1回あたりの閲覧時間の平均は1.0時間であり、1週間に1度で1時間程度の学生が多い(図1)。

Web の利用内容では、複数回答の集計から、国内のページが圧倒的に多く、特に、エンターテイメント、ニュース、趣味とスポーツ、就職情報、生活と文化が上位を占め、国内外ともエンターテイメントが最も多い(図2)。どちらかという、学習等に利用しているというより、週刊誌やテレビ等と同じような感覚でWeb ページを見ているように思える。Web の利用目的別から見ても、「趣味や遊びの情報を得るため」が最も多く、「空いている時間を過ごすため」が次にきていることから同様の意図がうかがえる(図3)。しかし、役立つホームページでは「学習」が上位にきていることなどは異なっている(図4)。

一方で、大学でのWeb ページやメールの利用等に関する基礎的な授業は80%以上の学生が必要、必ず必要と回答し、役立つ、非常に役立つともしている(図5)。

Web ページを利用したコミュニケーションの一つとして不特定な相手とのチャットがある。授業時間外でチャットを楽しんでいる学生を時折見かけるが、今回の調査結果ではチャット経験のある学生は少なく(図6)、どのような内容でチャットをしているかについても、「何気ないおしゃべり」ということであり、直接被害を被った学生は回答者全体で1名のみで非常に少なかった。また、就職情報などを閲

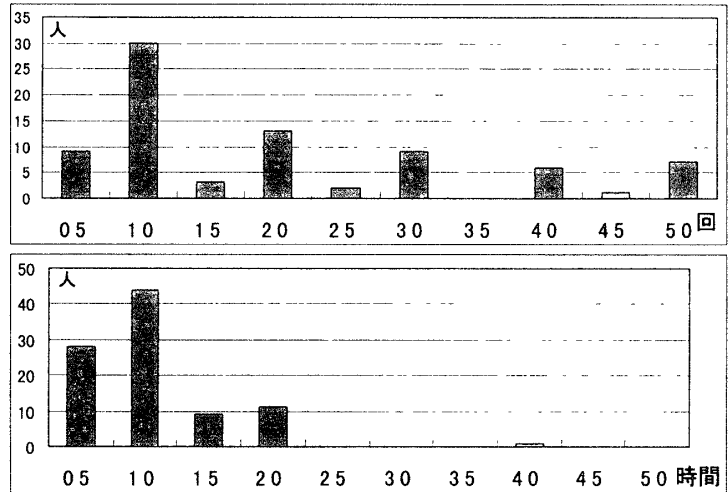


図1 Web ページの1週間あたりの閲覧回数(上) および一回あたりの閲覧時間(下)

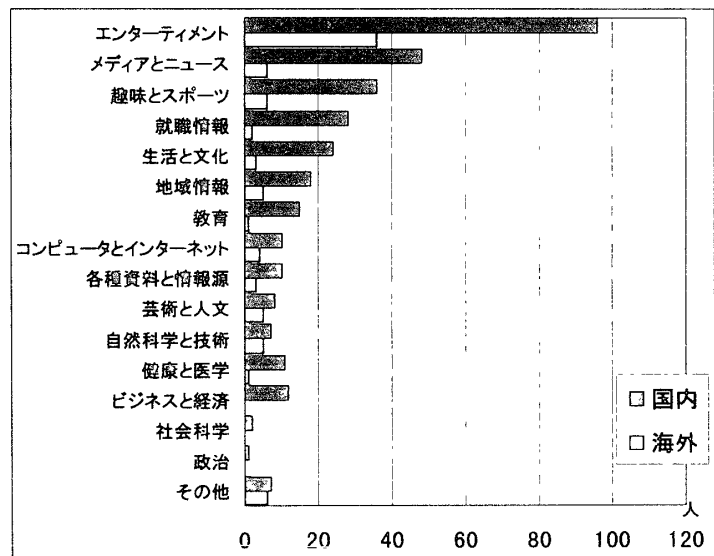


図2 Web ページのおもな閲覧内容

学生のWebおよびE-Mail利用の実態と問題点

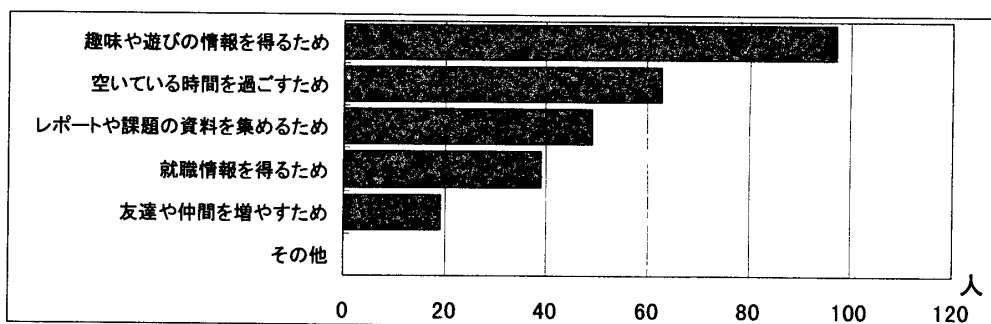


図3 Web ページを閲覧する目的

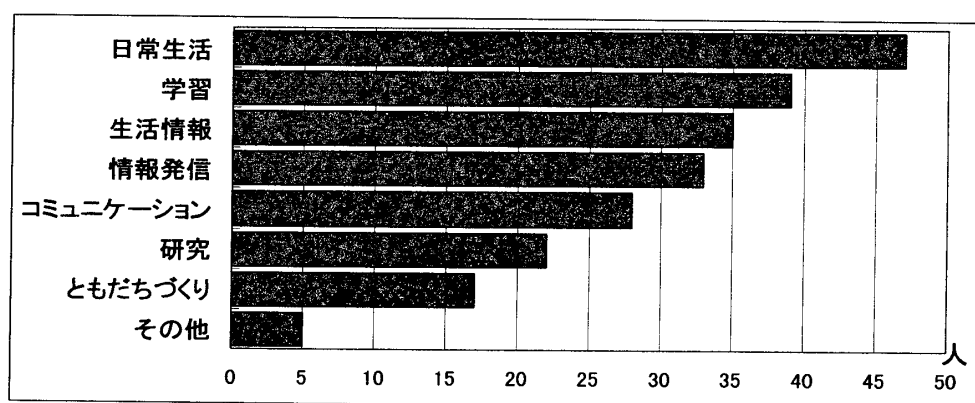


図4 役立つと思うWeb ページ

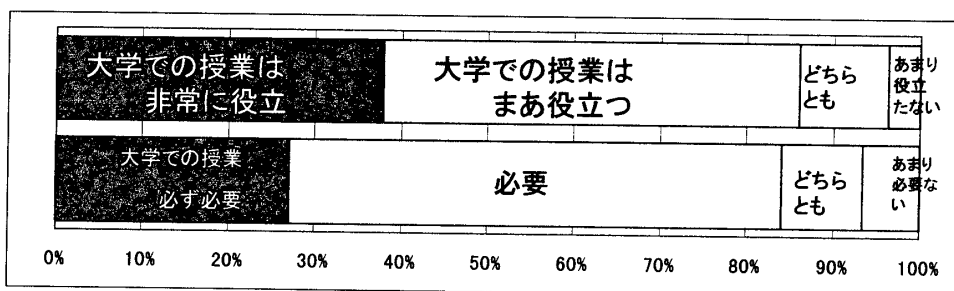


図5 大学でのWeb ページやメールの利用指導の必要性

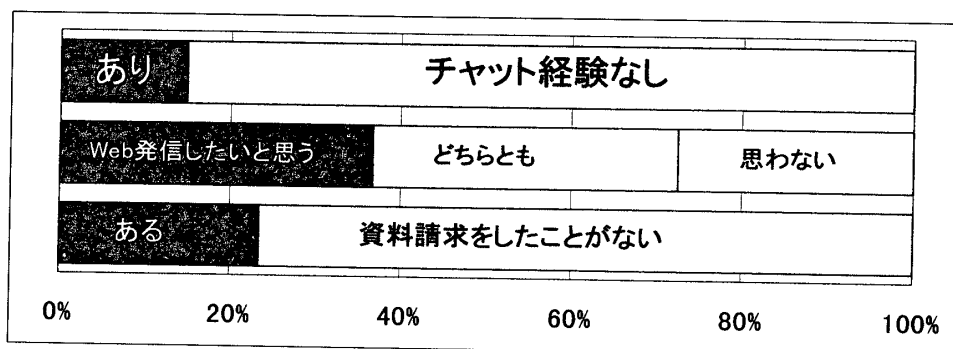


図6 Web を利用した発信、チャット経験、および資料請求の状況

覧していても Web を通して実際に資料請求をしている学生も意外と少ないことは、まだ Web を使った情報発信を積極的に望んでいるとは言えないようである。

メール利用について、回答者の多くが1週間に送受信5回程度(図7)で、その受信や送信状況を複数回答で得た結果、学内外の学生、そして国内の友人が多いことから、学生間あるいは同年代でのコミュニケーション手段になっていると言える(図8)。中に、携帯電話でのメール利用をあげている学生が少しあり、メール利用の広がりを感じさせる。メールを「役に立たない」とした学生は少なく、コミュニケーションの他、学習や自分の情報発信の手段とも位置づけているようである(図9)。

Web ページなどで資料請求をする場合や、何らかのメーリングリスト<sup>(4)</sup>に加入するなど、直接知らない相手にメールを送信することがあるが、調査結果でみると、知らない相手に送信した経験のある学生は多くない。特に、嫌がらせや危険を感じるメールを受信した学生も非常に少ない(図10)。

自己管理について、自分のメールアドレスを Web ページの投書コーナーなどに登録したこと

のある学生は20%を越えてはいるが、友人等にパスワードを教えた、あるいは友人のパスワードを知っているとした学生は少ない。十分とはいえないが、現状では、自己管理に気をつけて

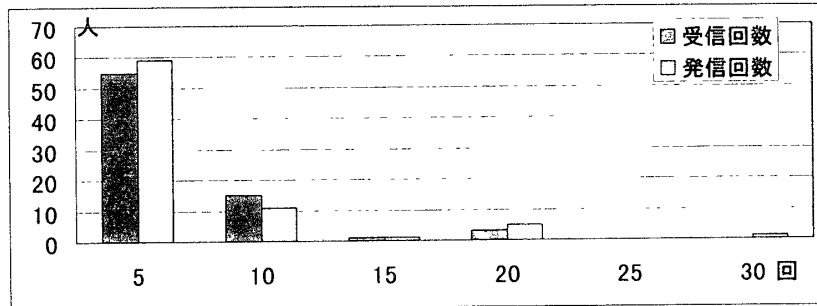


図7 メール利用の1週間あたりの受信回数および送信回数

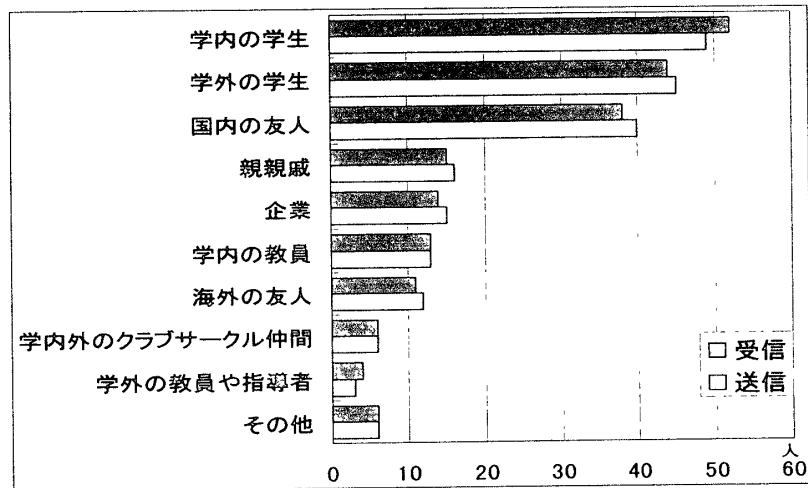


図8 メール利用の送受信状況

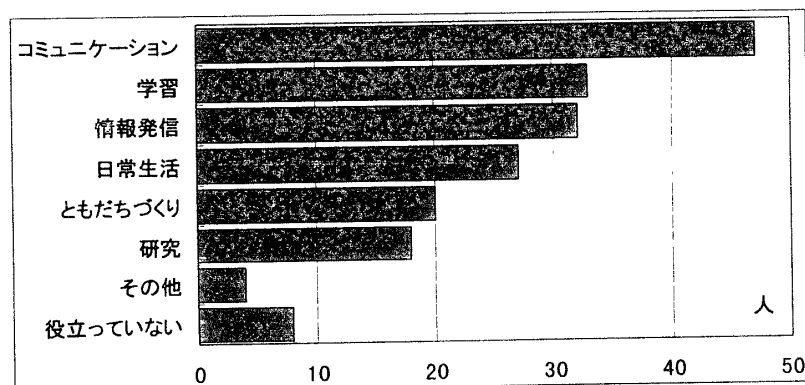


図9 役立つメール利用と考える内容

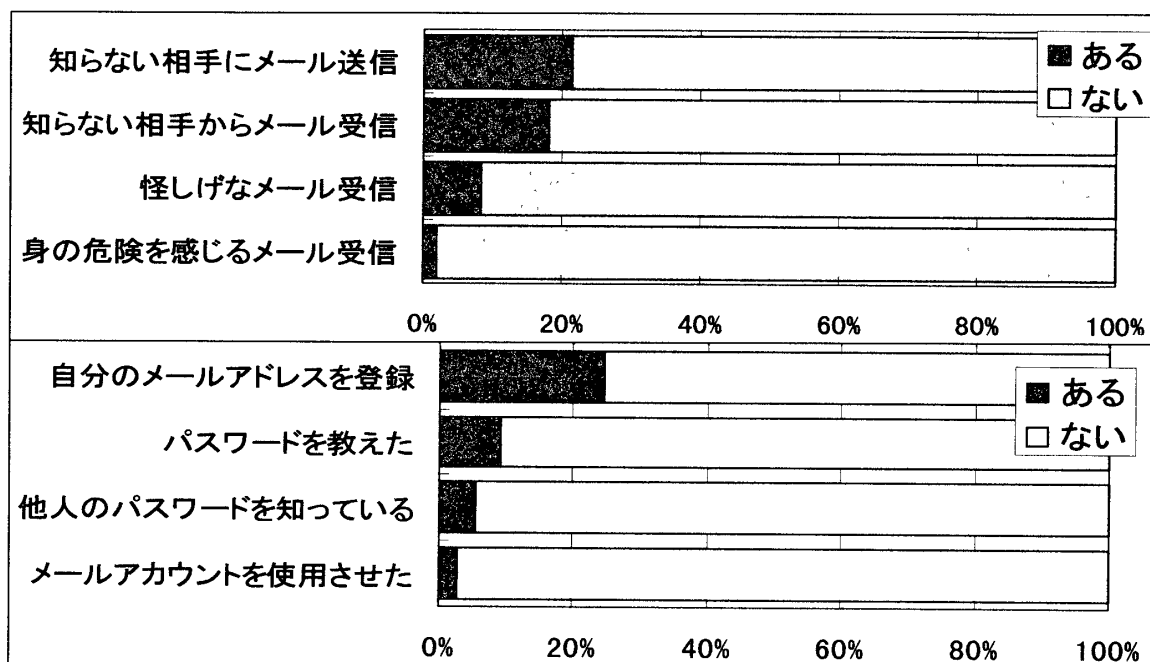


図10 自己管理状況

いるものと思われる。本学では学生にアカウントを発行する場合、パスワード管理やモラルについての講習を必ず行っているの、一つの成果と考えられる。ただし、自己管理にあまい学生もあることから、将来の電子取引や決済、バンキングなど、生活に深く入り込んでくることも予想されるので、今後の指導を強化しないといけないだろう。

### 考 察

インターネット接続業者も増え、接続料も安くなり、現在のインターネットの普及はとどまることを知らない。そして、パソコン用OSも使いやすくなるにつれて、利用者も急速に増え、インターネットを利用した情報発信も数え切れないほど氾濫してきている。今でも利用者にとって価値のある情報も決して少なくないが、良識のない情報や虚構宣伝、詐欺まがいの商売などが混在して、見方によっては取捨がつかない状況になってきているとも言える。実際、利用者にとっては情報を取捨選択し、いかに正しい情報を取得することができるかが重要であり、こうした能力が本当に必要になってきたと考える。テレビやラジオ、新聞、雑誌などは、ある程度分類がなされており、利用者が情報を取捨選択する能力があまりなくても、利用者にとって不要なジャンルや項目をあらかじめ選択できる簡易さがある反面、こうしたマスメディアは情報を操作するにも簡単で危険でもある。

一方、インターネットは、まさに混在する情報から利用者が自分の意志で取捨選択しなければならないので、正しい情報活用能力を身につけておく必要がある。悪質な情報を遮断するフィルタリングや規制はできないこともないが、インターネットの場合はその性質上、困難でもある。

本学では、これまでコンピュータやそのネットワークの基本的な使い方（技術的なことが中心）を、ほぼ全員に指導してきた。しかし、アンケート調査から見えた現実、Web利用の

ほとんどは、エンターテイメントや趣味・娯楽、メールは友人とのコミュニケーションであって、学問的な興味や関心、指導教員とのやりとりは少ない。そして、情報活用能力に乏しく自己管理にもやや甘い。

それでは、これからのコンピュータやネットワーク利用に関する指導としてどうすればよいか。

**1.コンピュータの基本的な使い方に関する指導時間の削減：**先にも述べたが、OS や各種ソフトウェアが充実し、文字タイプ以外のキー操作がほとんどいらぬことと、下書きを清書することは少なくなり、直接コンピュータに向かって思考することが容易になったことなどの理由から、キーボードタイプ、ワープロや表計算ソフトなどの技術指導に費やす時間を削減する。卒論などで実際に使う時点で、自ずとできるようになるので、コンピュータを利用すれば、何ができて、どのような点で価値があるかを理解させ、各種ソフトについては体験程度で十分である。そして、就職等、社会に出た場合、コンピュータは「使えて当たり前」だということが認識できる程度でよいと考える。

**2.インターネット等のネットワーク利用指導の充実：**Web や電子メールの仕組みやモラル、自己管理の方法をしっかりと認識させる。情報検索や、その活用について適切な課題を提示して指導する。特に、課題に即した情報の取捨選択利用に力を入れる。また、メールによる相談や資料ファイルの添付、特に ftp<sup>(15)</sup> の利用も勧めたい。現在、本学では大学院の学生以外の ftp 利用を制限しているが、指導内容によっては考慮する必要がある。

しかし、ほとんどの学生にとってコンピュータが使えないといけぬとなると、程度の差こそあれ、コンピュータ嫌いになる学生も出てくるものと思われる。コンピュータ入門として、エンターテイメントや趣味、娯楽に関する情報閲覧などを取り入れることも「コンピュータアレルギー」になる学生を減らす意味では大切であるが、その後の指導を失敗しないよう心がけたい。また、近い将来、コンピュータと携帯電話や携帯電話間のメール交換などの利用も増えることが、アンケートの記述回答の一部から見えてきているので、コンピュータやインターネットに限らず、携帯電話や携帯端末による情報収集やコミュニケーションとも関連することから、モラルや自己管理の面で、こうした機器利用の指導も付加したほうがよいだろう。なかには、コンピュータのキーボードでタイプするより携帯電話のテンキーをタイプしてメールを送るほうが速いものもいるというから驚きである。

**3.プレゼンテーション能力の育成：**表現力は情報機器の発達如何にかかわらず重要なことである。特にインターネットは情報発信を容易にしたばかりか、それに伴うソフトウェアの開発が進み、表現手法を多様化させた。こうした背景から電子情報としてのプレゼンテーション能力も求められるようになってきている。Web ページの作成などを取り入れた表現能力の育成が必要である。

**4.自己管理に関する基本指導の強化：**自分のIDやパスワードは絶対にもらさない。知られた場合に個人や学内ネットワーク全体に対する被害の可能性と意味をしっかりと認識させる必要がある。

**5.ネットワーク上の利用制限は最小限：**小中高では、猥褻な Web サイトや宗教色の強いサイトへは出られないよう制限しているケースがある。大学生には必要かどうか議論が必要であるが、どちらかという、強制的な制限より、正しい情報を自分で取捨選択できる情報活用能力を身につけさせることに重点をおきたい。今のところ、外部からの嫌がらせがあったという報告は非常に少ないがホットメールを利用している学生にときどき発生しているようである。

**6.罰則規定の必要性：**現在は、学生のネットワーク利用に関する罰則規定はないが、作成する必要はある。前述の項目とも関連するが、ネットワーク上の制限を強くせず、学生の自由な利用を保証することと、不正行為に対する罰則を設けることは裏腹の関係でなければならない。また、インターネットは一つの大きな電子ネットワーク社会であり、当然、一般社会と同様に違反行為や嫌がらせ、あるいは、犯罪行為に対する罰則規定を整備しないといけないと考える。

注) 関連用語

- 1) LAN：Local Area Network。狭い範囲に分散配置されたコンピュータや周辺機器を結ぶ小規模コンピュータネットワーク
- 2) Web：World Wide Web。インターネット上に分散配置された情報を、一つの端末からつなぎ目なしに簡単に取り出せるようにしたシステム
- 3) アカウント：ネットワークに接続された特定のコンピュータにアクセスするための権利
- 4) メーリングリスト：登録された仲間全員に同じメールが送受信できるサービス
- 5) ftp：File Transfer Protocol。ネットワークに接続されたコンピュータ間でのファイル転送プロトコル。ファイルを転送するための通信規約及びプログラムを指す